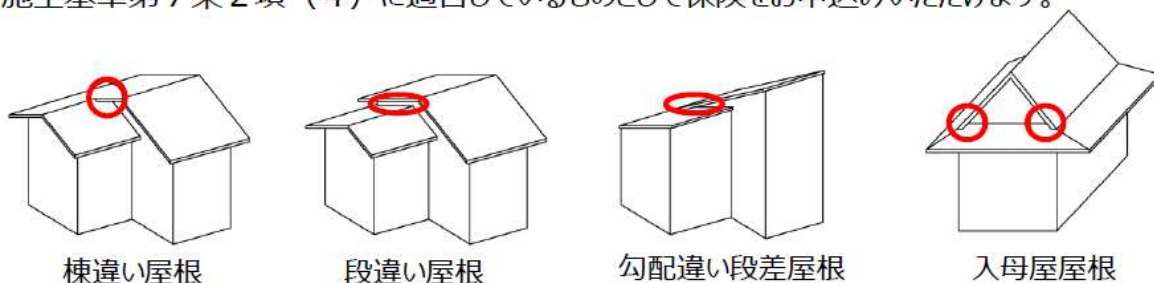


基準同等仕様7-①

『(形状上) 下ぶき材の立ち上がり高さが250mm未満となる場合の防水・止水措置』 棟違い屋根、段違い屋根、入母屋屋根等とする場合

棟違い屋根、段違い屋根、入母屋屋根等とし、形状上やむを得ず、屋根と外壁の取合い部において下ぶき材の立ち上がり高さが250mm未満となる場合は、以下に示す防水・止水措置を施すことにより、設計施工基準第7条2項(4)に適合しているものとして保険をお申込みいただけます。



※本書記載の防水・止水措置を施す場合は、保険契約申込時の提出図面に「仕様7-①」とご記入ください
(防水・基礎仕様説明シートへの記載でも可)

基準同等仕様7-① 防水・止水措置

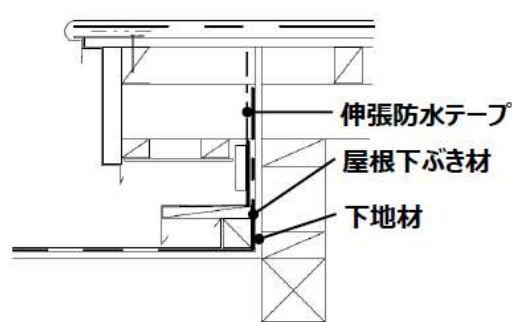
1. ①又は②により防水層を連続させる

①下ぶき材を立ち上げて、端部は伸張性のある防水テープ等で密着させる【納まり図1・2】
(母屋等と取合う凹凸部に確実に密着させる)

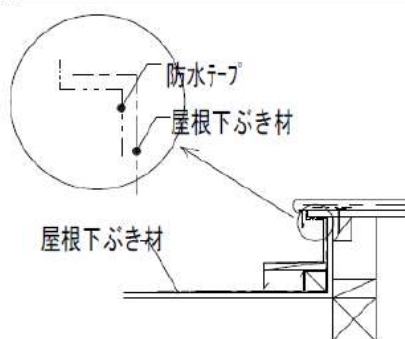
②軒の出がない場合は、下屋根の下ぶき材を巻上げ、その上に上屋根の下ぶき材を重ね巻き下げる【納まり図3】

2. 三面交点となる部分(下図○部分)はピンホールを防ぐため伸張性のある防水テープを施す
【納まり図1・2・3】

納まり図1 (破風板付の場合)



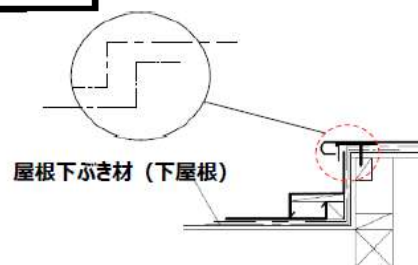
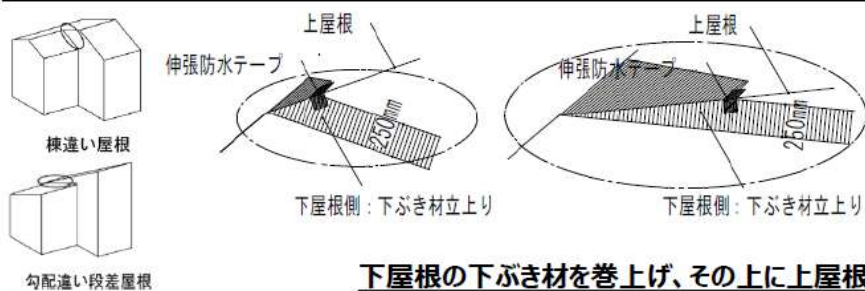
納まり図2 (破風板無の場合)



不適切な事例



納まり図3 (軒の出がない場合)



下屋根の下ぶき材を巻上げ、その上に上屋根の下ぶき材を重ね巻き下げる

20210901版

基準同等仕様7-②

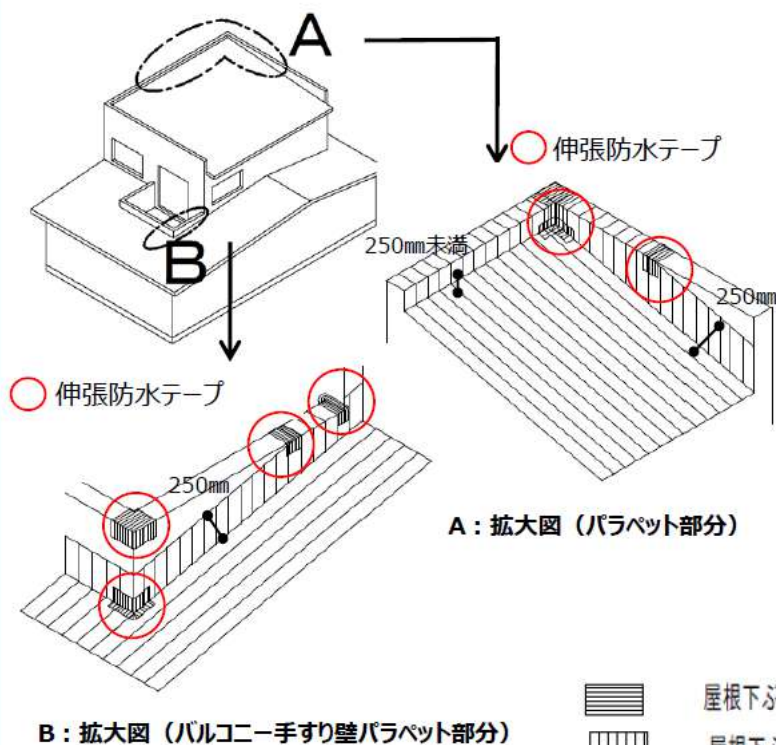
『(形状上) 下ぶき材の立ち上がり高さが250mm未満となる場合の防水・止水措置』 勾配屋根とパラペット・手すり壁が取合う場合

勾配屋根とパラペット・手すり壁が取合い、形状上やむを得ず、屋根とパラペット・手すり壁の取合い部において下ぶき材の立ち上がり高さが250mm未満となる場合は、以下に示す防水・止水措置を施すことにより、設計施工基準第7条2項(4)に適合しているものとして保険をお申込みいただけます。

※本書記載の防水・止水措置を施す場合は、保険契約申込時の提出図面に「仕様7-②」とご記入ください
(防水・基礎仕様説明シートへの記載でも可)

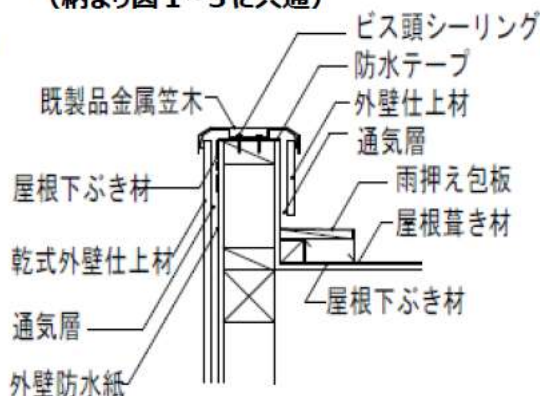
基準同等仕様7-② 防水・止水措置

- ①又は②により防水層を連続させる
 - ①下ぶき材を立上げてパラペット天端から外壁防水紙の上に重ねる **【納まり図1】**
 - ②下ぶき材と外壁防水紙を防水テープにて密着させる **【納まり図2・3】**
- 三面交点となる部分(下図○部分)はピンホールを防ぐため伸張性のある防水テープを施す **【納まり図1・2・3】**



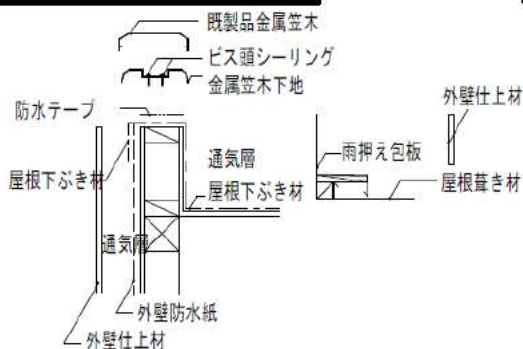
納まり図1

笠木を固定するビス等が防水層を貫通する場合、あらかじめ防水テープ等を施し止水する
(納まり図1~3に共通)

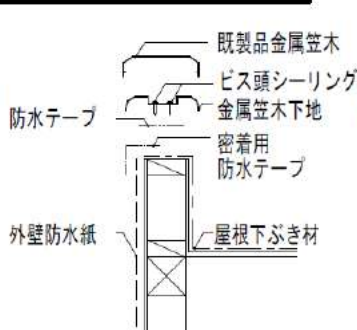


- 屋根下ぶき材 (屋根部分)
- 屋根下ぶき材 (壁立上り部分)
- 伸張防水テープ

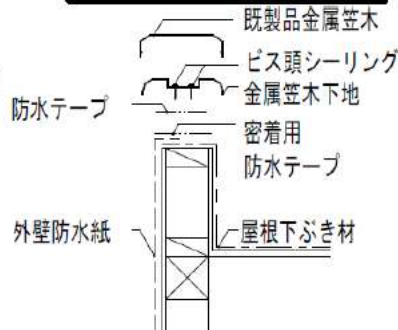
納まり図1・分解図



納まり図2・分解図



納まり図3・分解図



基準同等仕様7-③

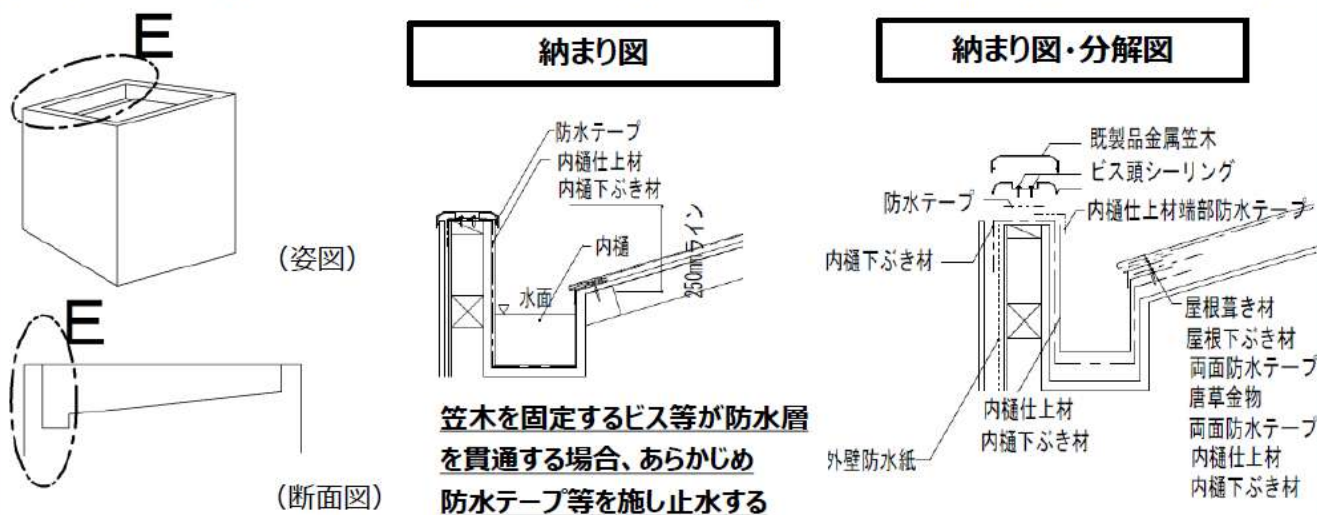
『(形状上) 下ぶき材の立ち上がり高さが250mm未満となる場合の防水・止水措置』 勾配屋根とパラペットが取合う場合 (水下側に内樋・谷樋を設ける場合)

勾配屋根とパラペットが取合い、形状上やむを得ず、屋根とパラペットの取合い部において下ぶき材の立ち上がり高さが250mm未満となる場合は、以下に示す防水・止水措置を施すことにより、設計施工基準第7条2項(4)に適合しているものとして保険をお申込みいただけます。

※本書記載の防水・止水措置を施す場合は、保険契約申込時の提出図面に「仕様7-③」とご記入ください
(防水・基礎仕様説明シートへの記載でも可)

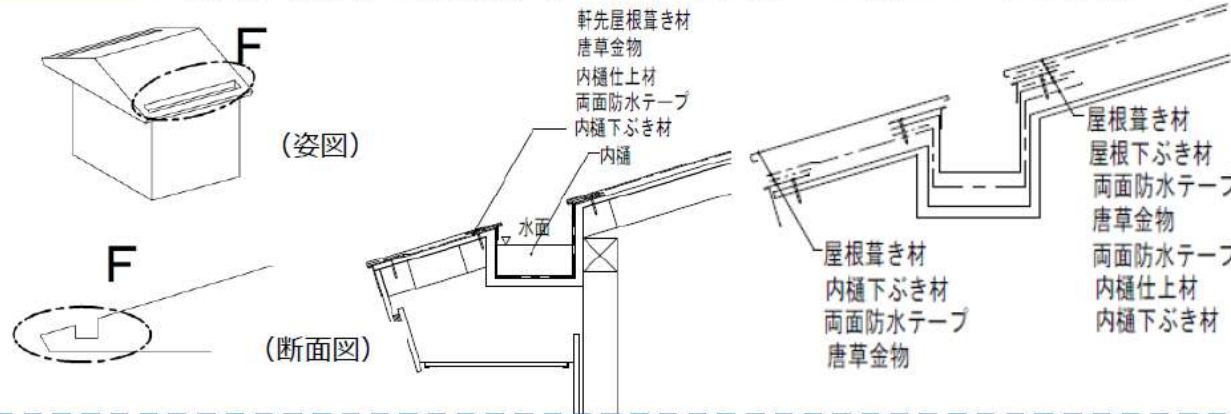
基準同等仕様7-③ 防水・止水措置

1. 内樋下ぶき材及び内樋仕上げ材を屋根面まで巻き上げ、その上に屋根下ぶき材を重ね、防水テープで密着させる
2. 内樋下ぶき材を立上げてパラペット天端から外壁防水紙の上に重ねる
3. 内樋寸法及びドレン、樋の径及び樋勾配は、地域降雨量の記録から速やかに雨水等を排出させるものとする

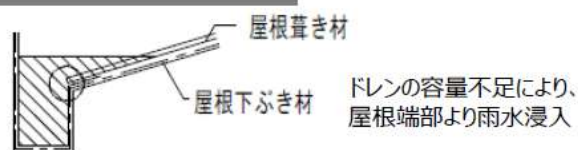


参考

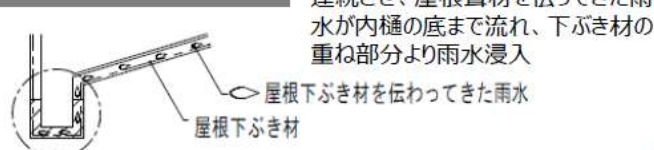
勾配屋根の軒先に谷樋を設ける場合 (下ぶき材の立ち上げ不足としては取扱いませんが参考図参照ください)



不適切な事例①



不適切な事例②



基準同等仕様7-④

『(形状上) 下ぶき材の立ち上がり高さが250mm未満となる場合の防水・止水措置』

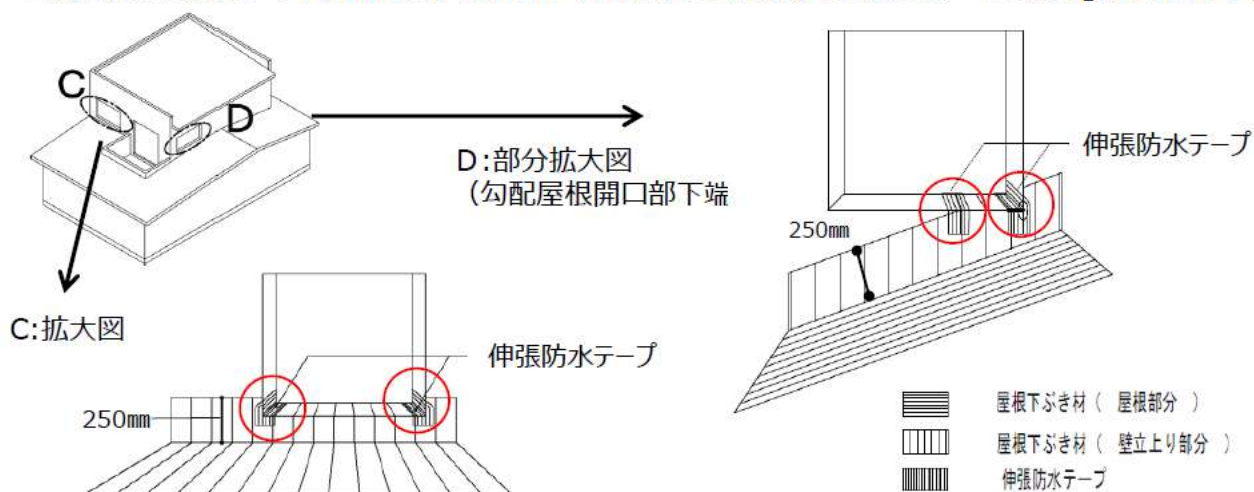
勾配屋根のすぐ上に窓がある場合

屋根のすぐ上に窓があり、形状上やむを得ず、屋根と窓が取合う部分において下ぶき材の立ち上がり高さが250mm未満となる場合は、以下に示す防水・止水措置を施すことにより、設計施工基準第7条2項(4)に適合しているものとして保険をお申込みいただけます。

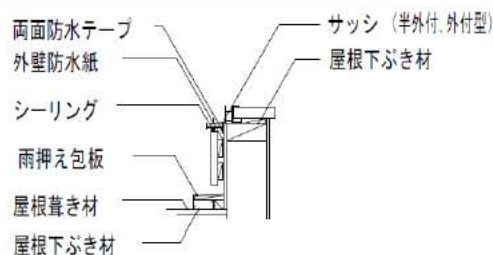
※本書記載の防水・止水措置を施す場合は、保険契約申込時の提出図面に「仕様7-④」とご記入ください(防水・基礎仕様説明シートへの記載でも可)

基準同等仕様7-④ 防水・止水措置

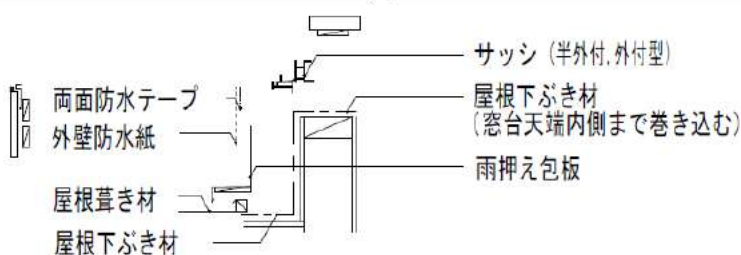
1. 下ぶき材を壁面に立ち上げて窓台天端に巻き込む **【納まり図1】**
又は 先張り防水シート(改質アスファルト系)を施す **【納まり図2】**
2. 三面交点となる部分(下図○部分)はピンホールを防ぐため伸張性のある防水テープを施す**【納まり図1・2】**



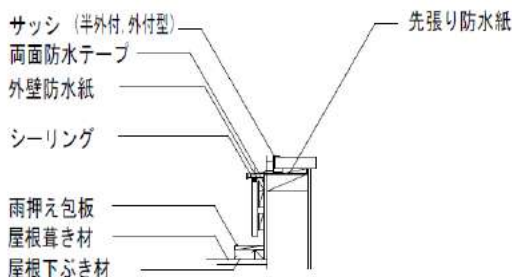
納まり図1 (下ぶき材を壁面に立ち上げて窓台天端に巻き込む場合)



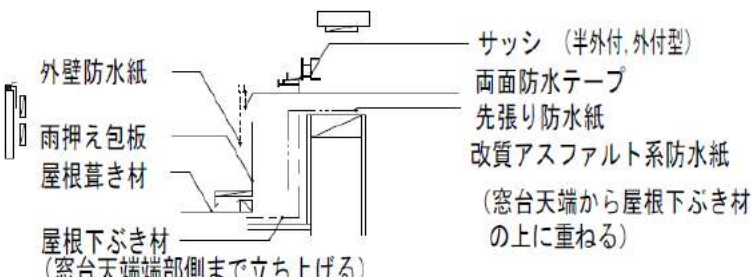
納まり図1・分解図



納まり図2 (先張り防水シート(改質アスファルト系)を施す場合)



納まり図2・分解図



基準同等仕様 8

バルコニー開口部下端120mm未満

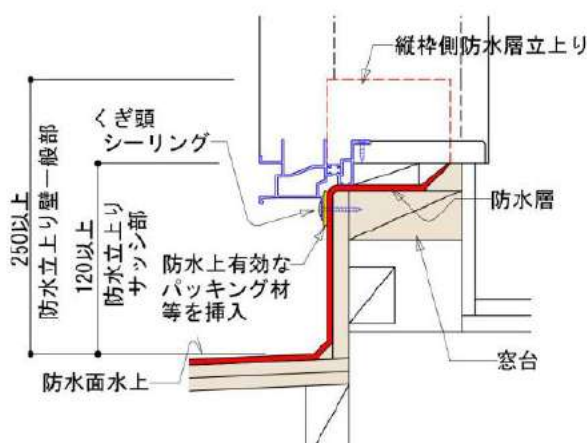
バルコニー開口部（サッシ）の下端の防水層の立上り高さが120mm未満となる場合の措置

バルコニー開口部(サッシ)下端の防水層の立上り高さが120mm未満となる場合は、以下に示す1～3全ての措置を施すことにより、設計施工基準第8条3項に適合しているものとして保険をお申込みいただけます。原則、防水工事を先施工することとしておりますが、やむを得ず防水工事を後施工とする場合は、施工が難しくなるため不具合が起きやすいことを念頭に確実な止水措置をお願いいたします。

基準同等仕様 8

防水先施工

1. 防水工事を「先施工」とし、窓台までFRP防水を巻き込む。
2. サッシがとりつく範囲（縦枠部分を含む）は、釘打ちフィンとFRP防水の間に防水上有効なパッキング材（シーリング材）を施す。
3. くぎ頭（ビス頭）は、紫外線に有効なシーリングを施す。



防水先施工の施工写真例

【保険申込時の提出図面】

- ・ 矩計図等に防水層の高さを明記してください。
- ・ 「基準同等仕様 8」を施す旨（「仕様 8」）を明記してください。（防水・基礎仕様説明シートへの記載でも可）

＜防水層の高さが120mm未満で、やむを得ず、防水工事を後施工とする場合の措置＞

1. サッシを取り付けた後、防水工事を「後施工」する。
2. サッシ釘打ちフィン面を十分目荒らしをし、プライマーを塗付して、塗むら等がないよう防水層を施工する
3. サッシ枠と取合う防水層端部には、シーリングを施す。
(なお、防水層の端部の処理に関する留意点は、まもりすLETTER vol.5をご参照ください。)

〈注意事項〉

防水工事を後施工とする場合は、サッシと防水層またはシーリング材の剥離が生じると、雨水の浸入の危険性が高まります。また、サッシ下端の高さが取れない場合は、施工が難しくなる分、施工上の不具合が起きやすいため、防水施工後、防水層の端部の処理が適切かどうか必ずご確認ください。

基準同等仕様8-①

『(形状上) 防水層の立上り高さが250mm未満となる場合の防水・止水措置』

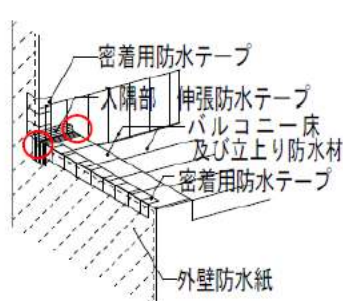
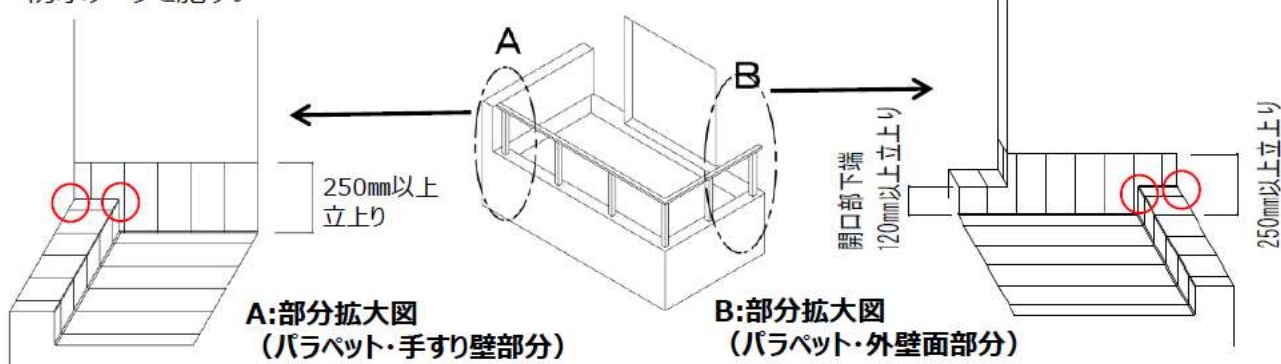
手すり壁にアルミ製等の手すりを取付ける場合

手すり壁に既製品アルミ製笠木・手すりを取付けるため、形状上やむを得ず、手すり壁部分において防水層の立上り高さが250mm未満となる場合は、以下に示す防水・止水措置を施すことにより、設計施工基準第8条3項に適合しているものとして保険をお申込みいただけます。

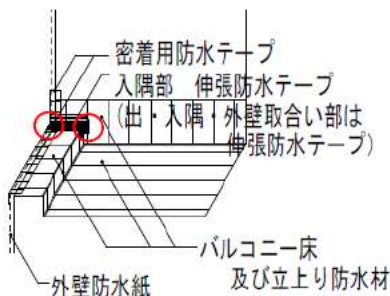
※本書記載の防水・止水措置を施す場合は、保険契約申込時の提出図面に「仕様8-①」とご記入ください
(防水・基礎仕様説明シートへの記載でも可)

基準同等仕様8-① 防水・止水措置

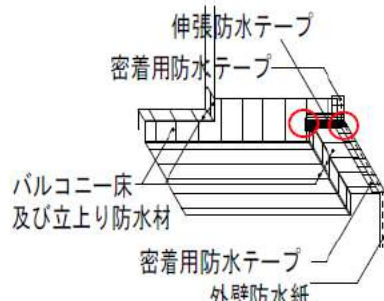
1. バルコニー床防水材をパラペット天端外部端部まで施し、外壁防水紙と密着させる。
2. 三面交点となる部分(下図○部分(出・入隅部、外壁部取合い部))はピンホールを防ぐため伸張性のある防水テープを施す。



A:部分解説図



A:部分解説図



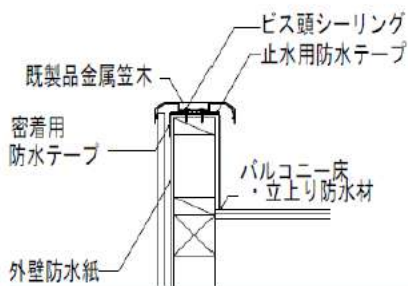
B:部分解説図

■ 外壁防水紙 (通気構法: 透湿防水シート, 非通気構法: アスファルトフェルト430以上 「パラペット取合い部分のみ表示」)

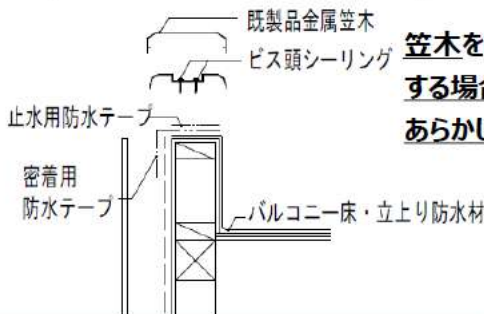
■ バルコニー床及び立上り防水材 (FRP防水等) ■ 三面交点止水措置用 伸張防水テープ ■ 密着用防水テープ

(密着用防水テープはパラペット外側端部で床・壁防水層と外壁防水紙を連続し密着する。)

納まり図



納まり図・分解図



笠木を固定するビス等が防水層を貫通する場合、あらかじめ防水テープ等を施し止水する

基準同等仕様8-②

『(形状上) 防水層の立上り高さが250mm未満となる場合の防水・止水措置』

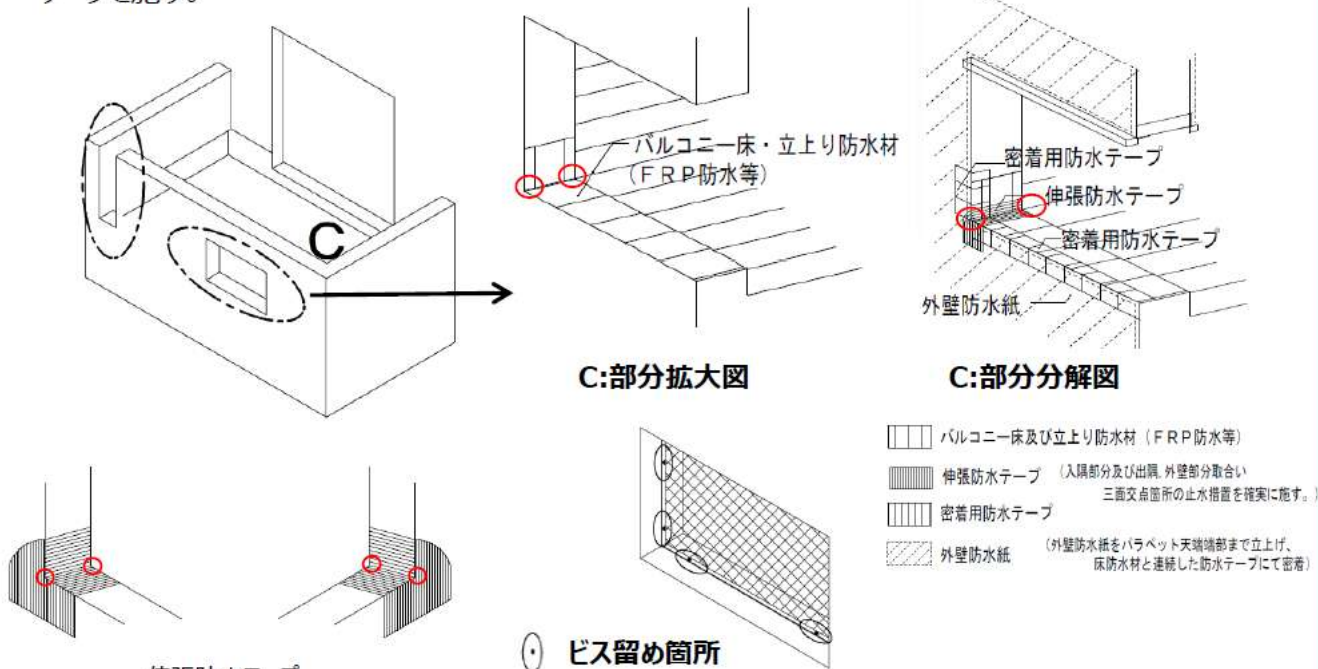
手すり壁にスリットや飾り窓を設ける場合

手すり壁にスリットや飾り窓を設けるため、形状上やむを得ず、スリットや飾り窓部分において防水層の立上り高さが250mm未満となる場合は、以下に示す防水・止水措置を施すことにより、設計施工基準第8条3項に適合しているものとして保険をお申込みいただけます。

※本書記載の防水・止水措置を施す場合は、保険契約申込時の提出図面に「仕様8-②」とご記入ください
(防水・基礎仕様説明シートへの記載でも可)

基準同等仕様8-② 防水・止水措置

1. バルコニー床防水材をパラペット天端外部端部まで施し、外壁防水紙と密着させる。
2. 三面交点となる部分(下図○部分(出・入隅部、外壁取合い部)) はピンホールを防ぐため伸張性のある防水テープを施す。

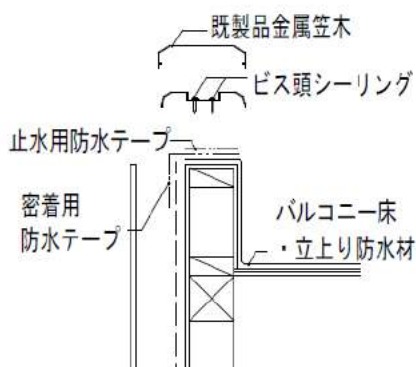


飾り窓に化粧金物等を取り付ける場合、固定するビス等が防水層を貫通する部分にはあらかじめ防水テープ等を施し止水する

納まり図



納まり図・分解図



笠木を固定するビス等が防水層を貫通する場合、あらかじめ防水テープ等を施し止水する

20210901版

基準同等仕様8-③

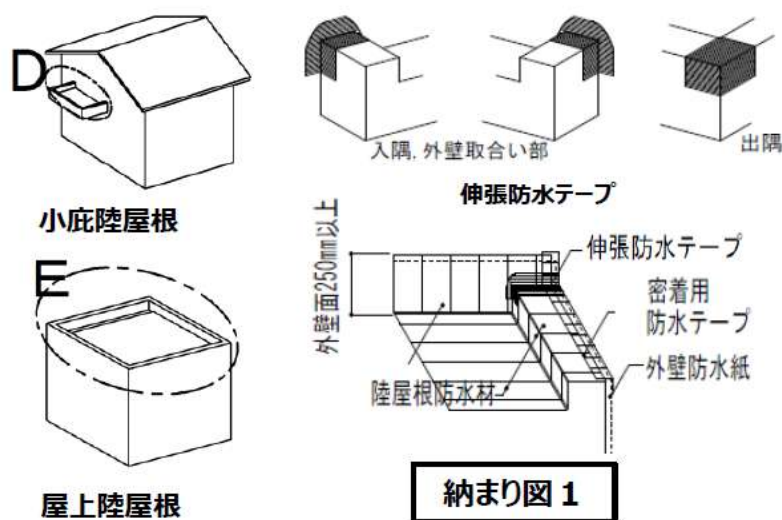
『(形状上) 防水層の立上り高さが250mm未満となる場合の防水・止水措置』 パラペット自体の高さが250mm未満の場合

パラペット自体の高さが250mm未満のため、形状上やむを得ず、パラペット部分において防水層の立上り高さが250mm未満となる場合は、以下に示す防水・止水措置を施すことにより、設計施工基準第8条3項に適合しているものとして保険をお申込みいただけます。

※本書記載の防水・止水措置を施す場合は、保険契約申込時の提出図面に「仕様8-③」とご記入ください
(防水・基礎仕様説明シートへの記載でも可)

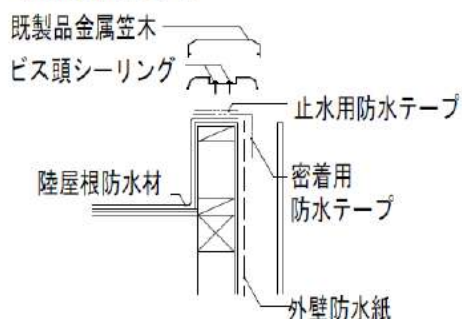
基準同等仕様8-③ 防水・止水措置

1. 陸屋根防水材をパラペット天端外部端部まで施し、外壁防水紙と密着させる【納まり図1】
2. 三面交点となる部分(下図○部分(出・入隅部、外壁取合い部))はピンホールを防ぐため伸張性のある防水テープを施す。



納まり図1

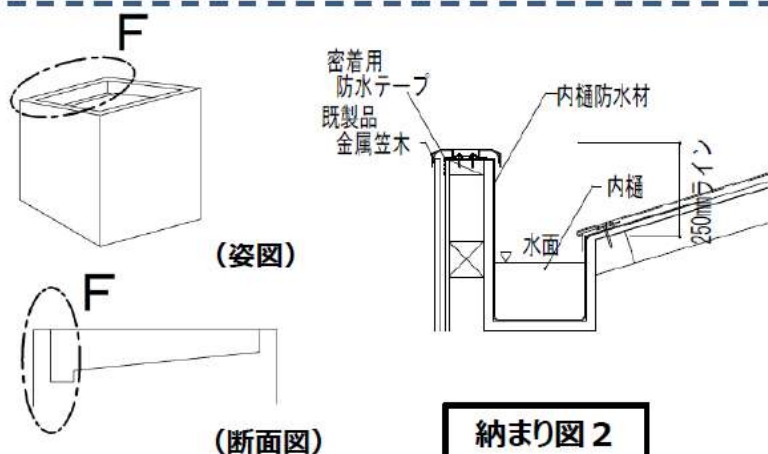
笠木を固定するビス等が防水層を貫通する場合、あらかじめ防水テープ等を施し止水する



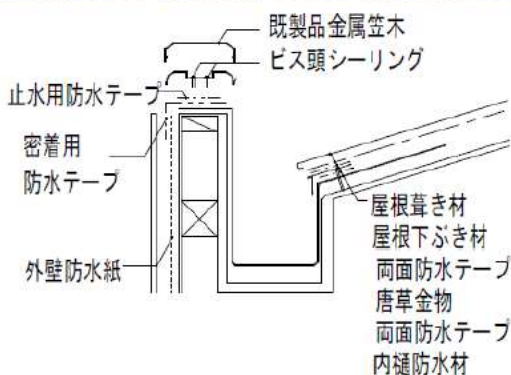
納まり図1・分解図

(水下側に内樋を設ける場合【納まり図2】参照)

1. 内樋防水材(FRP防水等)は屋根面まで巻き上げ、その上に屋根下葺き材を重ね、防水テープで密着させる。
2. 内樋防水材(FRP防水等)をパラペット天端外部端部まで施し、外壁防水紙と密着させる。
3. 内樋寸法及びドレイン、樋の径及び樋勾配は、地域降雨量の記録から速やかに雨水等を排出させるものとする。



納まり図2



納まり図2・分解図